

『HIV 感染者等に関する直接的指導のタイプ』

明治中学校 第3学年 保健体育科学習指導案

1 単元名 健康な生活と病気の予防「性感染症の予防／エイズ」

2 単元目標

- (1) 健康の保持増進のために必要な生活行動や病気の予防について関心をもち、仲間と協力して話し合ったり、意見を交換したりしながら課題解決のために意欲的に学習させる。
(関心・意欲・態度)
- (2) 健康の保持増進のために必要な生活行動や病気の予防について、自分の知識や経験、資料、仲間の意見などをもとにして、選択すべき行動を判断できるようにする。(思考・判断)
- (3) 健康の保持増進のために必要な生活行動や病気の予防について、科学的に理解し、日常生活の課題解決に役立つ知識を身に付けさせる。(知識・理解)

3 単元について

(1) 単元設定の理由

医学の進歩や環境衛生の改善により減少してきた感染症も、また近年になり新興感染症（重症急性呼吸器症候群、高病原性鳥インフルエンザ、腸管出血性大腸菌感染症など）、再興感染症（結核・コレラなど）と呼ばれる感染症が流行し、新たな問題となっている。

本単元では、感染症は病原体が主な原因となって発生し、感染症の多くは、発生源をなくすこと、感染経路を遮断すること、主体の抵抗力を高めることによって予防できることを理解させることをねらいとしている。感染症の予防は、生徒自身の健康や生命を守ることにつながるため、感染症に対する正しい理解と判断力、日常生活に生かせる能力を身に付けさせたい。

(2) 生徒の実態

全体的に素直で、体育に対する興味・関心も高く、体育の授業に積極的に取り組む生徒が多い。しかし、保健の授業に関しては、消極的な生徒もいるため、仲間と協力し課題を見つけ、活動していくことにより活動への意欲づけを図りたい。

本単元の事前の学習として、感染症についての調べ学習を行った。感染症について調べる中で、自分の健康を守るための免疫について、高い関心をもっている生徒も多くいることがわかった。

4 人権教育との関連

性感染症の中でもエイズに重点を置き、関心をもち、感染経路や予防法について理解することで、普段の生活では感染しないことが分かり【知性】、エイズに関する偏見や差別、不安を取り除き【感受性】、エイズ患者やHIV感染者と共に生きていける社会を作るために何が必要か考え、実践することができる【判断力・実践力】。

5 評価規準

(1) 単元の評価規準

ア 健康・安全への 関心・意欲・態度	イ 健康・安全についての 思考・判断	ウ 健康・安全についての 知識・理解
健康の保持増進のために必要な、生活行動や病気の予防について、自分の日常生活を振り返りながら、課題を見つけようとし、その解決方法を調べようとしている。	健康の保持増進のために必要な、生活行動や病気の予防について、自分の知識や日常生活等を振り返りながら課題を見つけ、文献の収集や資料分析などを通して、その解決の方法を選ぶことができる。	健康の保持増進にかかわる生活習慣や喫煙、飲酒、薬物乱用の影響、及び感染症などについて、科学的に理解し、日常生活の課題解決に役立つ知識を身に付けている。

(2) 学習活動における具体の評価規準

ア 健康・安全への 関心・意欲・態度	イ 健康・安全についての 思考・判断	ウ 健康・安全についての 知識・理解
① エイズ及び性感染症について資料を見たり、自分の日常生活を振り返ったりしながら、課題を見つけようとしている。 ② 感染症は、病原体が環境を通じて主体に感染することを、教師や仲間とともに活動したり、教科書などの資料を読んだりして、課題について調べようとしている。	① エイズ及び性感染症について、資料をもとに、新興感染症や再興感染症、海外から持ち込まれる感染症などが問題になっていることを、予想したり整理したりすることができる。 ② エイズ患者・HIV感染者とどのように共生していけばよいか考えることができる。	① エイズ及び性感染症の要因とその予防方法について、正しく理解している。 ② エイズ及び性感染症の要因や感染経路について理解することができる。

6 指導と評価計画

時	学習内容	ねらい	評価規準との 関連
1	○感染症における環境と要因 ○感染症を予防する3原則と免疫や抵抗力について ○近年の感染症の問題	・感染症は、病原体が環境を通じて主体に感染することを理解することができる。 ・感染症の要因とその予防方法について正しく理解している。感染症を予防する3原則と免疫や抵抗力について理解することができる。 ・感染症について資料をもとに、新興感染症や再興感染症、海外から持ち込まれる感染症などが問題になっていることを、予想したり整理したりすることができる。	アー② ウー① イー①
2	○性感染症の感染経路 ○性感染症の予防	・性感染症について、資料を見たり、自分の日常生活を振り返ったりしながら課題を見つけることができる。 ・性感染症の要因とその予防方法について正しく理解することができる。	アー① ウー①
3 本時	○エイズ、HIV感染症の要因と感染経路 ○エイズの予防	・エイズ、HIV感染症の要因や感染経路などについて正しく理解することができる。 ・エイズ患者・HIV感染者とどのように共生していけばよいか考えることができる。	ウー② イー②

7 本時の指導

(1) 題材名「性感染症の予防／エイズ」

(2) 目標

- ① HIV感染とエイズの病原体、症状、感染経路などについて正しく理解することができる。(知識・理解)
 - ② エイズ患者・HIV感染者とどのように共生していけばよいか考えることができる。(思考・判断)
- (3) 人権教育の視点

エイズについての正しい知識を身に付け、理解することにより、エイズ患者・HIV感染者に対する偏見や差別をなくし、また自分たちができることを考えさせることにより、共に助け合って生きる社会の実現のために、よりよい人間関係を築こうとする態度を養う。

(4) 展 開

◎人権教育上の配慮 △生徒指導上の留意点

具体目標	学習活動	時間	教師の支援及び評価	準備物
○エイズについて考え、グループで多くの意見を発表することができる。 ○本時の学習課題をつかむことができる。 ○H I Vの特性や感染経路、予防法などを通して、エイズという病気を正しく理解する。	1 エイズについて知っていることがあるか話し合う。 グループで話し合い、発表する。 2 本時の課題を知る。 エイズのことを正しく理解し、今後の自分の行動を考えよう。 3 H I Vの特性や感染経路、予防方法について学習する。 教科担任からの説明後、養護教諭(T2)から補足説明を行う。	10 25	・多くの意見が出てくるように、以前学習したことなどを想起するよう助言する。 △グループで協力して多くの意見が出るように助言する。 ・掲示資料を使ってH I Vの特性、感染経路について説明し、感染力の弱いウイルスであるため日常生活では感染しないことを理解させる。 ・H I Vに感染しても、感染していない人と同じように生活できることを強調する。	ワークシート 掲示資料 ワークシート
評価規準>H I Vの特性や感染経路、予防方法について正しく理解することができる。(知識・理解) 【おおむね満足な状態】 H I Vの特性や感染経路、予防方法についてワークシートに正しく記入している。 【努力を要する生徒への手立て】 掲示資料やワークシートを活用することにより、H I Vの特性や感染経路、予防方法について正しく理解させるとともに個人的に声をかけ、助言する。				
○エイズは偏見を伴った病気で、偏見は人権を侵害する行為であることを理解する。	4 ンコシ・ジョンソンさんについての資料を読み、H I V感染者に対する偏見や、差別について考える。	10	◎ ンコシ・ジョンソンさんの資料を読み、彼の心情を考えることで、H I V感染者に対する差別や偏見について気付かせる。	資料
評価規準>エイズ患者・H I V感染者とどのように共生していけばよいかを考えることができる。(思考・判断) 【おおむね満足な状態】 エイズ患者・H I V感染者に対して、自分たちができることをワークシートに記入している。 【努力を要する生徒への手立て】 資料ノートのウォームアップを使い、H I Vの特性や感染経路、予防方法について再確認させるとともに、再度資料を読ませる。				
○本時の活動を振り返ることができる。	5 本時の活動について振り返る。	5	△ 授業で分かったことや、さらに調べたいことなどを書かせ、これからもエイズ問題について関心をもち続けられるよう助言する。	ワークシート

8 成果と課題

本校は文部省指定のエイズ教育研究校を平成 8・9・10 年度に行ってきた経緯もあり、性教育と関連づけながらエイズの問題を継続的に取り組んできた。研究が終わってから十余年経つが、エイズに関する専門委員会を位置づけてきたことで、HIV 感染者・エイズ患者への理解を広めようとレッドリボン運動やエイズメッセージキルトの作製などが当時から継承されている。これらの活動が恒常的に行われていることで、生徒たちはこの人権課題に対して唐突な感じを抱くこともなく、今回の授業に臨むことができたようである。

本時の授業は HIV の感染経路やエイズ発症のメカニズムを生徒に理解させつつ、HIV 感染者・エイズ患者への偏見・差別の実態とその解消まで考えさせる展開であり、内容的にも量的にもかなり多いものであった。本来であれば、保健体育科の授業と学級活動に分けて学習する必要があるものを 1 時間に押し込んだ授業になっているため、いかに時間を短縮していくかが指導案作成上の課題であった。

今回はその課題に対して、「① 50 インチテレビをフルに活用して板書を一切行わない。」「② 養護教諭との TT により、エイズの解説を簡潔に行いつつ授業にアクセントを与え生徒の集中力を維持させる。」ことを試みた。PC を活用して視覚的に訴えながら説明を行っていく授業スタイルは、生徒の思考スピードよりも幾分速い感じもしたが、参観された先生からも一定の評価をいただき時間短縮という意味でも効果があったように思う。

また、養護教諭がゲストティーチャーとして登場したときには、「生徒の表情も変わり集中して話を聞いていた。」と生徒の変化を見取っていた先生方も複数いた。このように課題に対して一定の評価をいただいた部分もあったが、一方で人権教育としての深まりが十分でないといった意見もあった。展開における学習活動 4 の時間が 10 分弱しか確保できず、エイズ患者・HIV 感染者との共生について生徒が深い思考に至っていないのは事実であろう。

「正しい知識を私たちが持つことが、偏見や差別をなくしていくために必要である。」と意見を述べていた生徒もいたが、実践力を身に付けるまでにまだ学習活動が高まったか疑問が残る。保健体育科の目的を達成していく中で、人権課題について学ぶことは難しさもあり、それを解消するためには学級活動や道徳などと連携して取り組んでいく必要があると思われる。

そして、授業研究会の指導助言で指摘されたヒドゥン・カリキュラムの重要性を改めて考える機会となった。偏見を持つことや差別をすることを許さない雰囲気浸透する学校・学級を作っていくことが、不当な差別を許さない人権感覚を生徒に身に付けさせることになる。日々の教育活動で教職員全員が人権感覚を鋭くして指導に当たっていく必要性を再認識できたことが一番の成果だったように思う。

【参考資料】

4 健康な生活と病気の予防

1 1 性感染症の予防／エイズ

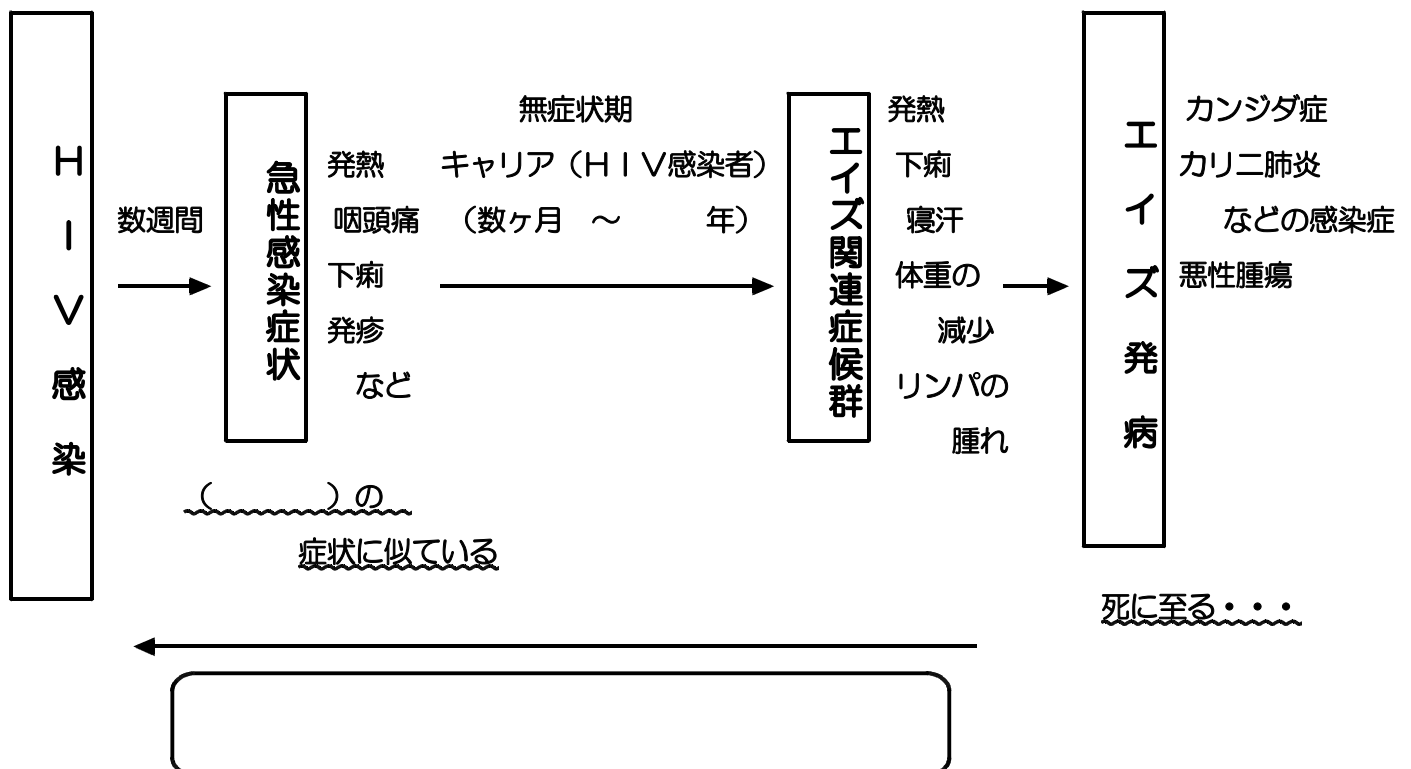
- 1 Q1 あなたがエイズについて知っていること（イメージなど）をできるだけたくさん書きましょう。
（友人の意見も可）

～本時の課題～

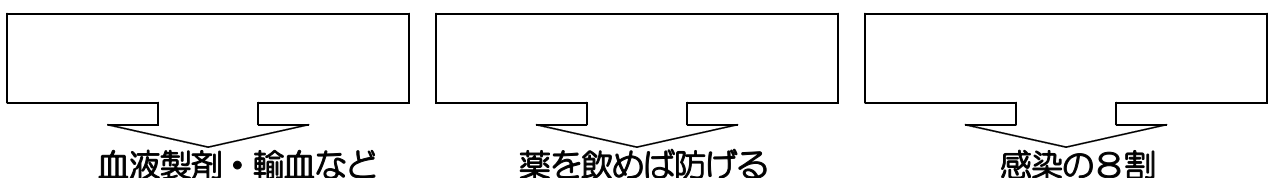
「

」

2 HIVに感染すると・・・

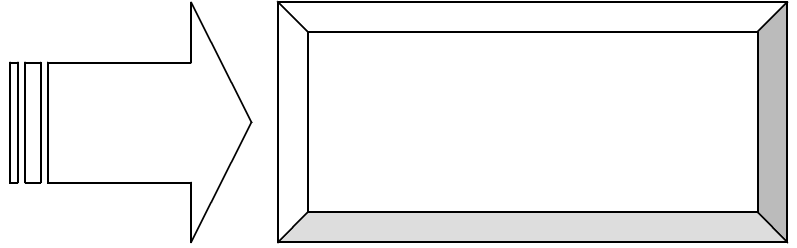


3 エイズの「感染経路」について



4 エイズは感染するのか！？ ○感染する ×感染しない

- ・ バスや電車のつり皮 ()
- ・ お金 ()
- ・ 公衆電話 ()
- ・ カラオケマイク ()
- ・ 蚊やハエ、ペット ()
- ・ せきやくしゃみ ()
- ・ おしゃべり ()
- ・ 握手 ()
- ・ 軽いキス ()
- ・ 献血 ()
- ・ プールや銭湯 ()



5 Q2 どうしてHIV感染者・エイズ患者は増加しているのだろうか。

6 Q3 ～ンコシ・ジョンソン君の話をきいて～

HIV感染者とエイズ患者とともに生きていくために必要なことはなにか。
わたしたちになにができるだろうか。感想でも何でも結構です。

7 今日の授業でわかったこと

これから新たにこんなことが知りたいなど何でも構いません。
今日の授業を振り返っての感想を書きましょう。

